

ワンニャントピック



コロナ禍で活躍のセラピー犬に名誉

セラピー犬とは、人々の心理的・身体的な健康をサポートするために訓練された犬のことで、病院や施設などで特定のグループや個人に対して、癒しや快癒の助けを提供する役割を果たします。米国のメリーランド大学でこのほど、人々を献身的に支えたセラピー犬と介助犬に、名誉学位を授与する催しがあり、称号の名前は、「Doctorate (博士号)」ならぬ、「Dogtorate」。コロナ禍で活躍した犬など3頭と、飼い主が表彰されました。大学の発表によると、授与式は今年13日に行われ、表彰された犬の1頭で、ロットワイラーという犬種の5歳の「ロキ」は、コロナ禍で画面越しに人々を癒やす「バーチャルセラピー」で活躍し、「Dogtor ロキ」の愛称で親しまれていました。人々の間に温かくフレンドリーな関係を築いてくれたセラピー犬の今後に期待です。



ネコにマタタビ与えても..依存症や毒性は？

マタタビを与えるとまるで酒に酔っ払ったような行動を取るネコですが、その際に、マタタビにはアルコールのような依存性や、毒性はないのか？この疑問に答える研究結果を、岩手大などの研究チームが発表したのです。

安全性は高く、数年間マタタビを与え続けても肝臓や腎臓の機能障害もなかったのです。依存性の調査では、ネコにマタタビを4時間与えても、10分程度しかマタタビに接触せず、時間とともに興味が減少する傾向が見られたのです。

依存症であれば、マタタビに接触し続けると考えられるため、依存性はないと結論づけました。マタタビとストレスの関係を調べたところ、通常の時とマタタビを与えた後では、猫が感じるストレスの値に大きな変化は現れなかった。

今回の結果で、マタタビはネコにとって「安全性が高く、ポジティブな結果をもたらすことが明らかになった」と話している。

Animal Hospital

